

## SSW 通信 No.16 2026年3月

「叶わなかった夢」

スクールソーシャルワーカー 田仲 輝男

…消えてしまった夢…



○私は多趣味ですが、その中で私の人生を変えた趣味があります。アイスホッケー観戦、「こんなに面白いスポーツがあったのか！」初めて生で見た、日光アイスバックス対西武の試合に私の心は一瞬で持っていかれました。こんなスポーツに嵌って27年、アイスホッケーは私の人生に無くてはならない物になってしまいました。この趣味の私の人生への波及効果はすさまじく、アイススケートの練習をはじめ、平昌オリンピック観戦のための韓国語学習から繋がった韓国語学留学、ミラノオリンピックアイスホッケー全日本男子最終予選応援のための初デンマーク旅行とそれに必要な英会話学習、寒い冬が嫌いだったのに、スキーやスケートが楽しみで早く来い来い寒い冬、になり、地球温暖化に強い危機感を持って環境保護運動に加わり、と行動の幅が広がって私の人生を大きく変えたのです。そして12年ぶりにNHLがドリームチームを派遣するミラノコルチナ冬季五輪、その世界最高峰の迫力と昨年2月の五輪最終予選を段トツ1位で勝ちあがり出場を決めたアイスホッケー全日本女子チームの活躍を、私が見に行かないわけにはいかないのです。女子日本代表チームは長野、ソチ五輪では全敗、しかし平昌、北京五輪では6位と順位を上げ、ミラノでは初のメダルを狙っていました。正直、アメリカやカナダと対戦したら、100回戦って何点取れるか、銅メダル候補のフィンランドとも5回戦って1回勝てるかどうかくらいの力の差はあります。日本女子チームにはキャプテンで日光明峰高出身の小池詩織選手、そしてチームで二番目に若い17歳で日光出身の小平梅花選手がいます。今回、北京五輪で6位になったチームから半数の選手が入れ替わり、小平選手に代表される若い力が大量に加わりました。ベテランと若手の融合で化学変化が起き、爆発的な力が発揮できれば、歴史的なメダル獲得も夢ではなかったのです。果たして第一戦のフランス戦、フランスの最後の得点は明らかにフランスの反則後で取り消されるべきものでしたが、日本の抗議は実らず、しかし何とか3対2で勝利。次のドイツ(世界ランク8位)戦、私の隣席は、日本リーグの審判をしていた方でした。審判の目から見るチーム状況は少し違っていました。「なぜ高校生を入れるのか。他にもっと実績のある選手がいる。オリンピックは育成の場ではない」「日本のリンクを早く今の北米規格(横幅が4m狭い…体が小さく、パスを多用する日本チームには不利)に合わせないといけない」「ボディコンタクトに対する反則基準が以前より緩くなってきている」…彼の心配通り最後の反撃も空しく、2対5の敗戦。元審判の彼は「日本チームは毎回レベルアップしてきたのに、この状態ではまた今のランク(同7位)に戻るまでに10年はかかる」と言っていました。そしてカナダなどからの帰化選手9人を加えた世界17位のイタリアにも惜敗、準々決勝進出にかすかな望みをかけた最終のスウェーデン(同6位)戦ではこれまでで動きが一番良かったものの、得点を奪えず、0対4で敗れ全体9位で彼女たちのオリンピックは終わりました。素人目にはリンク幅の狭さが日本チームのプレイに大きな影響を与えていたように思います。メダルどころか9位に終わった小池主将は赤く腫らした目で「力不足」と言い、リンク幅の狭さには一切触れませんでした。今回12年ぶりにNHL選手が参加することで、リンク幅が北米規格となったのでしょうか。どうしてもNHL選手の動きが見たい、とアメリカVSラトビア戦を観戦しましたが、試合開始時間は何と夜9時。アメリカのロサンゼルスでは昼の12時から放映される計算です。開催地ミラノでは ترامや地下鉄の終電時間を大幅に延長していました。IOCの最大の収入源はNBC(米放送局)らしい。オリンピック会場、グッズショップではVISAカード(米会社)しか使えず、空のペットボトルも持ち込めない会場で購入できる飲料はコカ・コーラ製品(米会社)。純粋にスポーツを応援していた私は、実は世界的な大きな経済の力に飲み込まれていたのです。世界平和を求めてジャーナリストを目指した若き日の田仲青年の夢は消えてしまっていました。踊らされている自分が少し悲しくなりました。